



今年の漢字「輪」を大切にしたい1年

先日、恒例になっている漢字能力検定協会による今年の漢字が「輪」と発表されました。2020年の東京五輪招致と『平和な輪』のつながりのある世界に向けて努力しましょう、という意味合いも込めて選ばれたそうです。

今年の大庄中、生徒会の全体方針は「生徒一人ひとりが思いやりを持ち、協力できる学校にしよう」でした。また、体育大会のスローガン「～団結～想いひとつに全力で！！」や文化発表会のスローガン「全員が一つになる文化発表会を創ろう」にも、「協力」や「想いひとつ」や「全員が一つ」といった「輪」につながるフレーズが入っていました。大庄中の生徒も、敏感に世の中が求めている何かを感じ取っていたのかもしれない。新しい年も、大庄中の生徒全員の「輪」のつながりが、子ども達を成長させる原動力になることを願いつつ、冬休みを迎えたいと思います。

尼崎市が全国学力調査の結果分析を公表

12月の始めに、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を尼崎市として分析した報告が公表されました。4月の調査の結果が12月に？と思われるかもしれませんが、文部科学省による結果の公表が8月の下旬で、その後市としての分析を行いましたから、公表が遅くなったのです。

この報告、今回は新聞などにはあまり取り上げられませんが、尼崎市のホームページにアップされていますので、機会があればご覧になってください（尼崎市→学ぶ・あそぶ→学校教育→小学校・中学校→学力調査→全国学力・学習状況調査）。

19年度→25年度 全国との差が大幅に縮まる

下の「表1」は、「全国学力・学習状況調査」（中3）の尼崎と大庄中の平均正答率の全国平均との差を平成19年度（この調査が最初に行われた年）と本年度とで比較したものです。例えば、国語A（知識）では、平成19年度は、平均正答率で全国より尼崎の方が5.9%低かったのですが、本年度は、その差が3.9%まで縮まったということです。この表から、4つのテストの25年度の尼崎市の平均正答率は、全国平均よりやや低いものの、全国との差は、平成19年度より大幅に縮まっていることが、わかってもらえると思います。

		19年度	25年度	近づいた%
国語A	尼崎	-5.9	-3.9	2.0
	大庄中	-7.3	-6.8	0.5
国語B	尼崎	-13.0	-5.5	7.5
	大庄中	-12.0	-6.3	5.7
数学A	尼崎	-11.1	-4.2	6.9
	大庄中	-20.0	-10.9	9.1
数学B	尼崎	-13.0	-5.8	7.2
	大庄中	-20.0	-9.7	10.3

大庄中も 全国との差を大幅に縮める

大庄中も、国語では縮まった幅が尼崎よりやや少ないのですが、平成19年度と本年度を比べると、大幅に全国平均に近づいています。特に、数学では尼崎よりも大きな幅で全国平均に近づいています。今後、さらに全国との差が縮まり、いつかは追い越せるようになることを目標にできたらな、と考えています。

学力全国一 秋田県に学ぶ

「全国学力・学習状況調査」と言えば、結果が公表されるたびに注目されるのが秋田県です。小学校も中学校も、平成19年度以降、国語・数学ともに全国平均より4～8%高い平均正答率を誇っています。手元に、秋田県の学力や学校教育について分析をした教育雑誌があります。インターネットによる秋田県のデータも参考にして、秋田の中学生の学力の秘密の一端を紹介します。これで、大庄中も学力アップ！

安定した生活習慣が学力アップの基盤

「表2」は、「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙から生活習慣に関連する項目を抜粋し比較したものです。数字などから選んで答える質問以外は、質問に対して、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の%の合計を表にしています。この結果から、秋田の中学生には、安定した生活習慣があり、昔からよく言われる『早寝・早起き・朝ごはん』を実行している子どもが多く、これが表3にみられる良好な学習習慣をささえ、高い学力の要因になっていると推測されます。逆に、大庄中は、生活習慣面での安定のなさが、学習習慣が定着しないことの一つの要因となり、学力の伸びを妨げているのではないかと、思えます。

	秋田県	全国	大庄中
朝食を毎日食べる	96.8	93.8	91.1
毎日同じくらいの時刻に起きる	94.3	92.3	91.0
毎朝6～7時に起きる	74.1	59.8	40.7
毎日同じくらいの時刻に寝る	78.8	74.3	65.5
夜12時以降に寝る	14.8	23.5	28.3
携帯・スマホを持ってない	52.9	35.3	29.0

当たり前の学習の積み重ねが学力アップの秘密

	秋田県	全国	大庄中
自分で計画を立てて勉強する	58.8	44.5	31.7
家で学校の宿題をする	93.4	86.8	71.0
家で学校の予習をする	42.0	33.3	14.5
家で学校の復習をする	82.5	48.6	31.8
平日の学習0～1時間	22.7	31.3	48.6
休日に全く勉強しない	1.2	11.8	25.5
学習塾に行っていない	70.2	39.6	45.5

左の「表3」は生徒質問紙から学習習慣に関連する項目を抜粋し比較したものです。大庄中の生徒は、計画を立てて勉強する生徒が少なく、宿題・予習・復習をあまりしない。当然、家庭学習の時間も少ないことがわかります。一方、秋田の多くの中学生は、学習塾に行かず、学校の勉強と家庭学習で

高い学力を身につけていることがうかがえます。平日の家庭での学習時間も、8割近くが1時間以上やっていて、休日に全く勉強をしない人はほとんどいません。宿題や予習・復習などを含めて、当たり前の勉強をきちんとやっている中学生が多いことが、高い学力の大きな要因になっていると推測できます。

秋田の中学生は、日々の安定した規則正しい生活習慣が、よい学習習慣につながり、学力のアップにつながっているのでしょう。一日にすれば少しのことでも、当たり前の勉強を毎日コツコツと積み重ねることの大切さを大庄中も学び、真似をしてほしいと思います。

（文責：校長 福井 隆夫）